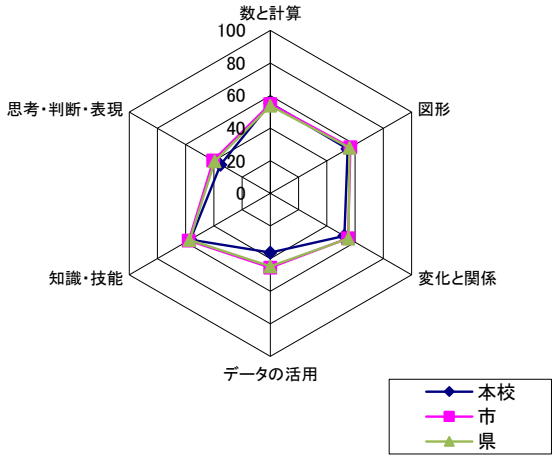
宇都宮市立桜小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.4	54.9	53.7
	図形	54.7	56.6	56.1
	変化と関係	52.3	55.1	55.2
	データの活用	36.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	56.7	57.8	57.2
	思考・判断・表現	35.3	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均と比べやや高い。 ○小数第1位×整数の計算問題では，市の平均正答率よりも17.8ポイント高い。小テストやステップアップテストを実施し，計算技能の定着を確認しながら，習熟を図った成果であると考えられる。 ●除法の性質を利用した計算の工夫について説明する問題に課題が見られる。	・今後も高学年でつまずきやすい小数・分数の乗除の意味や計算の仕方について理解を図れるようにする。 ・課題解決の際，ペアやグループで話し合ったり考えを書いたりする活動を意図的に増やし，計算の工夫について説明できるよう繰り返し指導していく。
図形	平均正答率は，市の平均と比べ低い。 ○立体の辺と面の位置関係を理解しているかどうかを見る問題では，市の平均正答率より14ポイント高い。 ●平行四辺形の作図をすることができるかどうかを見る問題では，市の平均正答率を23.1ポイント下回った。	・引き続きICT等を活用し，図形について理解を深めていく。 ・作図については，コンパスや定規の使い方を丁寧に指導し，学習課題に繰り返し取り組むようにして習熟を図っていく。
変化と関係	平均正答率は，市の平均と比べ低い。 ○表をたてに見ることで，伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率を14.9ポイント上回った。 ●比べ方について，差を用いる場面と割合を用いる場面について説明することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率を9.4ポイント下回った。	・今後も伴って変わる2つの数量関係について，多角的に捉えられるようなものの見方や考え方をできるよう指導していく。 ・割合を使った比べ方について説明する問題では，図を用いて視覚的に捉えられるようにすることで，自分の考えをまとめられるようにしていく。
データの活用	平均正答率は，市の平均と比べ低い。 ●折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では，市の平均正答率を17.7ポイント下回った。また二次元表の読み取りを理解しているかどうかでは，市の平均正答率を12.7ポイント下回った。	・スマイルネクストドリルを活用し，児童の習熟度に合わせて折れ線グラフの問題に取り組むようにしていく。 ・データから読み取れることを説明する課題では，算数的な見方や考え方を働かせながら表現することができるように，視点やキーワードを示すようにする。また，ICTを活用し，読み取ったことと伝え合う活動を取り入れていく。